

ガンコ親父の

長男士郎の息子「博喜」が遊びに来た。強面の松次郎だが、小学生の博喜には優しい顔に見えた。自分を心から可愛がってくれているかどっかが判断の基準で、子供は案外、大人の持つ心を直感で読み取れるものだ。博喜は面白い話を聞かせてあげようという松次郎の前に座った。

久しぶりに頭数が揃ったので、みんなで麻雀をする事に。面子はへび、ムカデ、ノミ、ギンバエ。途中でカラスが加わった。みんな、けっこう酒に強くて、麻雀最中からゴクゴク。麻雀が終わる頃にはもう酒壺の中は空っぽに。これから食事をすると、酒がなくなったら楽しみも半減してしまう。

誰かが買い出しに行かなくてはならないが、夜更けだし酒屋まではケツコウな距離がある。みんなはもつと飲みたいものの、買い出しは疲れるし、誰もが行きたくはなかった。

「俺は腕がないので酒壺は持てないしな。腕さえあれば……」とへびが切り出した。話し終えた後に、先割れの赤い舌をペろりと出した。

「ワタシが触った酒など飲みたくないでしょ、みんな？」とギンバエもブンブンと羽を鳴らして言い訳。出掛けたくない気持ちギンバエにおつた。

「自分は鳥目だから、夜はちよつと……」とカラスは白々しい嘘をついて、「ノミさんがびよんびよんと元気なので、あなたが行くべきでは」と勧めた。

カラスのその言葉は、身体の小さなノミにとっては脅しそのものに聞こえ、「僕はたくさん持てませんが、それでも良かったら」と、泣き出かけていった。

みんなは酒が届いてから食事にしようとお預け状態で待っていた。が、待っても待ってもノミは戻って来ない。「やっぱりノミさんはあの体だし、重い酒壺なので、びよんびよん飛び跳ねる事が出来なくなったのでは」とへびが論理的冷静さで言った。「もつこは、ムカデさんに迎えにいってもうっつかないかも」とギンバエが赤く充血した目で騒ぎ立てた。

口数の少ないムカデは「それなら、私が」と、ノミのことも心配しながら、部屋を出て行った。さらに時間は経過したが、ノミはもちらんムカデも帰って来ない。しびれを切らしたカラスが本性を現わし、見えないはずの夜なのに目撃しようとした。「あらっ、カラスさん、あなたは鳥目なのじゃ？」その時、物音が聞こえたので、みんなが玄関に出て行った。なんと、靴箱の前にはムカデがいた。「あら、ムカデさんが帰って来られたのですか？」カラスが目を見つめて尋ねた。

「いえ、まだ靴を履いているところなんです。みんなより足が多いのもう大変で、大変で……」全員、言葉を失った。

話の後で、松次郎は付け加えた。「博喜ならこんなときは、もちろんみんなのために買い出しを進んで引き受けるよな?」「おしいちゃん、それより、こんなことにならないように準備しておく事が大事でしょ。はいこれ!」「しまっちゅ伝蔵」を渡した。「パパと途中で買って来たんだ!」……」博喜の応えに、今度は松次郎が言葉を失ってしまった。



しまっちゅ伝蔵
でん ぞう
常圧蒸留



昔ながらの手造り こだわり焼酎

喜界島の肥沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。

2014年春季全国酒類コンクール・黒糖焼酎部門第1位受賞

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



the most beautiful
villages in japan

喜界町
鹿児島県

動物達に乾杯!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。